



七尾市立七尾東部中学校保健室
令和6年11月 No.8

マイコプラズマ肺炎 についてのお知らせ

① そういえば、この咳、ずいぶん長く続いているなあ。わりと元気もあるけれど、もう2週間くらいになる...



② これはマイコプラズマです。普通の抗菌剤では聞かないので、マイコプラズマ細菌に効く抗菌薬を出しますよ。水分をとって安静にしてくださいね。数日でよくなってきますよ。



マイコプラズマ肺炎は、マイコプラズマという細菌の感染による急性の呼吸器感染症です。咳が長く続き（2～4週間）、学校や幼稚園、保育所などで感染がみられます。14歳以下の小児が感染者報告の80%を占めています。

症状

2～3週間の潜伏期間をへて、発熱・頭痛・だるさなどから、次第に咳が目立つようになります。「ずいぶん長く咳が続くけど…」と受診してみるとマイコプラズマの感染であるというケースがあります。

夜間に激しい咳があり眠れないなどのときは医療機関へ受診を！



治療

自然に治癒する傾向もある感染症ですが、有効な抗菌剤（マクロライド系など）を服用することで、症状の出る期間を短くすることができます。治癒までには数日～数週間かかります。



こんなときは医療機関へ受診をお勧めします

- 昼間、学校や幼稚園、保育所での生活に支障をきたすほどの咳がみられるとき
- 夜間、咳で眠れないとき
- 乾性の咳が2～3週間続くとき
- 発熱と咳が出るとき

※髄膜炎・髄膜炎などの合併症が起こることもあります。

登校、登園について

熱が下がり、症状の強い急性期の症状がおさまり、全身の状態が良くなれば、登校、登園は可能です。医師に診てもらいましょう。



咳が長引く場合には、マイコプラズマ肺炎の可能性もあります。近くの医療機関を受診してください。詳しくは裏面をご覧ください。

予防について

✦ 手洗いをよくします。手洗いは正しい方法で行ってください。

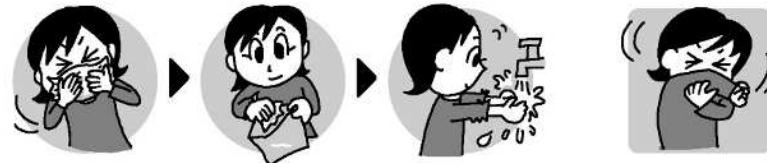


✦ 咳が出るときは…



✦ マスクがないときは…

- ティッシュなどで口をおさえるようにしてください。口をおさえたティッシュは別個にして処理して、手を洗いましょう。
- ティッシュがないときは自分の腕で口をおさえましょう。



※夜間の激しい咳があるときは、うつさないように他の人と同じ部屋で寝ないようにしてください。

【おうちの方へ】

マイコプラズマ感染症(マイコプラズマ肺炎)急増にあたり、その対策について

日本呼吸器学会、日本感染症学会、日本化学療法学会、日本環境感染学会、日本マイコプラズマ学会の5学会より合同で「マイコプラズマ感染症(マイコプラズマ肺炎)急増にあたり、その対策について」の提言が出されました。

①マイコプラズマ感染症とは？



マイコプラズマ感染症は、マイコプラズマという細菌による感染症で、様々な症状をきたします。現在、流行しているマイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマと呼ばれる菌による呼吸器感染症で、一般的な肺炎と異なり、学童期から成人にみられ、高齢者には少ない感染症です。ほとんどが軽症で、自然に治ることもありますが、ごく稀に重症化することがあります。

以前は、4年に一度のオリンピック開催年に定期的に流行していたため、「オリンピック肺炎」と呼ばれていたこともありますが、最近はその傾向はなくなりました。現在の流行は最後に流行した2016年の流行を超える流行となっています。

②どのような症状がある？



マイコプラズマ肺炎では、発熱、倦怠感、頭痛、咽頭痛などの症状がではじめて、数日後に咳^{がいそ}嗽(せき)が出てきます。せきは、痰を伴うことが少ない乾いたせき(乾性咳嗽)が特徴で、解熱した後も長く持続することがあり、「長引く頑固なせき」と表現されます。ただし、これらの症状だけからマイコプラズマ感染症を診断することは困難です。呼吸器症状以外にも、稀ではありますが、中耳炎、皮疹、心筋炎、ギランバレー症候群など肺以外の病気を合併することもあります。

③どのように流行するの？



新型コロナウイルス感染症のように、せきやくしゃみの飛散から感染が広がる、いわゆる飛沫感染が主体です。潜伏期は2~3週間で、患者と濃厚に接する家族内、もしくは、職場内などの小集団でしばしば広がりますが、インフルエンザのように短期間で地域の大規模な感染拡大が起こることは稀であるとされています。ただし、学校で流行を引き起こし易いことから、夏休み明けの新学期は要注意です。さらに子供が学校で感染し、家庭内にもちこむことによる家族内感染も多く発生しています。

④感染しないようにするには？



新型コロナウイルス感染症と同様に、飛沫感染しますので、マスク着用、換気などの感染予防対策を行いましょう。併せて、石けんによる手洗いやアルコールによる手指衛生も併せて行いましょう。

⑤感染が疑わしい、あるいは感染した場合



マイコプラズマ感染症は感染症法上で5類感染症と定められており、毎週の全国の流行状況が把握されています。現在のように、流行期にある場合、風邪のような症状、せきがある、周囲に同様の症状の方がいる、という場合は、マイコプラズマに感染している可能性があるため、近くの医療機関を受診してください。なお、現在、新型コロナウイルス感染症も流行しています。医療機関を受診する際には、医療機関に連絡をいれて受診することをお勧めします。

受診後に、本感染症の診断がなされ、抗菌薬で治療が行われた場合、一般的に2~3日で解熱することがほとんどですが、解熱しない、せき、そのほかの症状が悪化する場合は、再度、医療機関にご相談ください。

⑥出席停止期間は？



マイコプラズマ肺炎は、学校保健安全法で「第三種学校伝染病」に指定されているため、急性期は出席停止となります。一方で、明確な出席停止期間は定められておらず、症状が軽快したら登校可能となります。

参考 マイコプラズマ肺炎増加に関する学会からの提言について
(令和6年10月24日)